

平成23年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

1	4	6	0	3
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 新学術領域研究 4. 研究期間 平成23年度～平成27年度
5. 課題番号

2	3	1	1	3	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 ゲノム・遺伝子相関：新しい遺伝学分野の創成

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 2 7 3 8 3 6	たかやま せいじ 高山 誠司	バイオサイエンス研究科	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
6 0 3 4 2 6 3 0	きのした てつ 木下 哲	バイオサイエンス研究科	特任准教授
1 0 3 1 4 4 4 4	すずき ごう 鈴木 剛	大阪教育大学 教育学部	准教授
9 0 3 7 0 1 2 1	たかはし あや 高橋 文	国立遺伝学研究所 集団遺伝学研究系	助教
0 0 2 7 0 9 9 2	まつおか まこと 松岡 信	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター	教授
8 0 3 4 6 1 0 5	きたの じゅん 北野 潤	国立遺伝学研究所 新分野創造センター	准教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本新学術領域研究の総括班では、研究全体を統括し、班員相互の密接な連携を図り、国内外の動向を調査しつつ、適切な助言を行うことによって本領域を円滑に推進・運営することを目的としている。初年度である平成23年度は、領域発足記念キックオフミーティングを平成23年10月5日キャンパスプラザ京都において開催した。様々な学術分野から予想を遥かに超える110名以上の研究者の参加があり、本領域計画班員による講演とそれに対する活発な議論が行われた。本領域の発足の周知と、今後どのように新しい学術分野を切り開いていくのかを議論する大変有意義な機会を得た。また、同時に、総括班会議を開催し、研究評価者を交えて今後5年間の新学研究方針の確認、および公募班の研究内容に関する意見交換を行った。また、領域代表が中心となり、随時メール・電話等で意思疎通を行い領域の方針を策定し、新学術領域研究全体の研究方針を確認するとともに、次世代シーケンサー等の各課題に共通の研究技術の運用を中心に打合わせを随時行った。本新学術領域のホームページに関してもこれを早い段階に作成し、研究概要、公募研究の案内、班員名簿を掲載し、国内外研究者および一般社会へのインターフェイスを設置した。また、作成したホームページを利用して、シンポジウムの案内、研究成果の公表、アウトリーチ活動を含めた情報を写真画像とともに随時発信した。アウトリーチ活動は、小学校、高校、SSHを中心に85件の出前授業等を行った。ニュースレターに関しても、第1号および第2号を発行した。第1号には、班員名簿に加え、キックオフミーティング等の案内を掲載し、班員・関係者への周知をはかった。第2号には、シンポジウムの講演要旨を掲載し、多くの学術分野にまたがる本領域内外の相互情報収集を促し、各班員の研究のさらなる発展の一助となるようにした。

10. キーワード

- (1) 総括班 (2) ゲノム遺伝子相関 (3) 遺伝学 (4) ゲノム
 (5) 遺伝子 (6) (7) (8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ①当初の計画以上に進展している
(理由) 総括班、並びに領域代表がリーダーシップを発揮して領域ホームページ、ニュースレターを始めとする領域の周知活動に加え、内容の濃い発足シンポジウムを行うことができた。その結果、100件を上回る公募班への申請があり、領域の活動に十二分に貢献しうる公募班編制を組むことが可能となった。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

今後の総括班の活動に関しては、従来どおり綿密に協議を重ねながら方針を策定していくことに変わりはない。但し、公募班員の増加に伴い総括班業務の強化が必要となったため、平成24年度からは各総括班員の業務の一部見直しと、人員の補充を行うこととした。
--

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

【学会発表】計(0)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名	発表標題		
学会等名	発表年月日	発表場所	

【図書】計(0)件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取得】計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

http://www.ige.tohoku.ac.jp/prg/genetics/
